

第七十六回句会 俳句

【高点句】

- ☆薯小さく柔らかく炊き母の膳 〈明美〉
☆床柱磨く秋日を撥ねるまで 〈明美〉
☆来し方を良きに解釈秋の空 〈眞澄〉
☆干し柿の出来栄え語る義父は笑み 〈青蛙〉

【各自一句】

- ・栗拾明日から続く栗料理 〈一馬〉
・新米のお礼の電話国訛 〈眞澄〉
・新聞にくるみて渡す小菊かな 〈美保〉
・コスモスや今年も古寺の隅に咲く 〈哲雄〉
・もてなしの栗づくしなり小さき宿 〈伸子〉
・秋蝶や置き忘れたる羅針盤 〈郁代〉
・上下左右吟味しシャインマスカット 〈安津子〉
・冷蔵庫ぶどうひと房先にあり 〈撫子〉
・爽やかな甘き雫の長十郎 〈隆司〉
・秋果食ふ阿蘇が噴煙上げるとも 〈莫院〉
・ぐりとぐらホットケーキに栗添へて 〈明美〉
・鳥になりたし疫病禍の秋の風 〈緑〉
・競い合いゆで栗食べた日の遠し 〈青蛙〉

*以上、39句（3句ずつ12名と2句が1名、1句が1名）より、選句は14名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第2位が同点で3句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載／1名は掲載辞退）